

## 「全鍍連」 2020年 12月号 理事長のよこがお

兵庫県鍍金工業組合 理事長 高橋 宏忠

(オリエンタル鍍金(株) 代表取締役社長)

「兵庫県鍍金工業組合の歩み」



兵庫県は、大阪という商工業の都を控え、国際港湾都市神戸を中心として発展した県であり、瀬戸内海に面した阪神、播磨の二大工業地帯を抱えた全国で有数の工業県である。神戸を中心とした兵庫県の経済発展の基盤となる重厚長大産業を支える要素技術のひとつに『めっき』が挙げられる。

兵庫県下に於けるめっき業を営む企業は古くから存在していたようですが、それを知る資料は残されておらず、大正13年の記録が最も古い資料として現在に残っています。

昭和初期には神戸市内だけで24社が存在し、昭和10年前後に鍍金工業組合の前身ともいえる同業組合が結成されましたが、現在ではその詳しい資料は残されておられません。

戦前戦後の混乱期を経て、昭和22年5月に、同業組合から兵庫県鍍金工業協同組合へと改組され35社の組合員企業で発足しております。後で、兵庫県鍍金工業組合の組合員数の変遷について触れさせていただきますが、令和2年度の組合員企業数は30社、皮肉にも発足当時の組合員数よりも5社少ない。この数字を見ると、兵庫県の経済基盤が落ち込んでしまっているのかなと、ふと考えてしまいます。

戦後の高度成長から昭和40年代以降、我が国の経済の急速な発達に伴って組合員数も増加の一途を辿り、昭和46年には60社を数えるまでに拡大し、昭和47年7月に協同組合を組織変更し、現在の兵庫県鍍金工業組合が組合員数61社で発足致しました。その後組合員数は年々増加を続け、昭和51年には兵庫県鍍金工業組合の歴史上最大の81社を数えるまでに拡大をしていきました。

しかし、残念ながらその後は減少の一途を辿り、翌年～昭和58年は70社台、昭和59年～62年は60社台、昭和63年～平成7年は50社台、平成8年～平成17年は40社台、それ以降は30社台と、ピーク時から比べてほぼ3分の1近くにまで大幅に減少してしまっております。この大きな要因の一つには、未曾有の被害をもたらせた阪神淡路大震災で被害を被った事が否めない事実ではありますが、他にも兵庫県下の経済環境であったり、それぞれ各企業が抱えている社内事情であったり、複雑に様々な要因が絡み合って組合員数の減少を招いてきたのではないかと考えております。

『めっき』という要素技術は、古代オリエント文明の発掘品からも、日本では日本書紀に記される程、古くからその歴史を刻み、人類と共に発展してきた技術です。我々としてもそういう技術を有し、事業を推進できる事に誇りを感じておりま

す。

これからの時代、組合員企業を大幅に増やす事は、非常に難しいと思います。

兵庫県としては、組合員数は少ないながらも、同業組合発足から今日まで 80 有余年の歴史を有し、その歴史の重みを感じつつ、組合組織の存在意義を示し、発展に結び付く有意義で且つ充実した組合活動が展開出来るよう組合員皆様方と共に取り組んで参りたいと考えております。